

ハンセン病をテーマにした演劇 「風が吹いた、帰ろう」の高松公演を開催

— 高円寺の劇団桃唄 309 が大島取材制作、チケットは 7 月 21 日から —

瀬戸内国際芸術祭実行委員会（会長：浜田恵造香川県知事）では現在、瀬戸内国際芸術祭の会場となった島に引き続き残る作品を継続公開する「ART SETOUCHI 2017」を開催中です。これにあわせて、この度、東京・高円寺を中心に活動する劇団桃唄 309 が、大島の取材を通じてハンセン病をテーマに制作し 2016 年春に東京で公演した演劇「風が吹いた、帰ろう」を香川県では初めて、サンポートホール高松で上演します。

1909 年にハンセン病の療養所が設立され、厳しい偏見や差別を経験してきた大島の歴史、そこに暮らした人々の生活を知ることができる貴重な作品として、多くの人にご覧いただきたいと考えています。

● 劇団桃唄 309 公演「風が吹いた、帰ろう」概要

公演名 | 風が吹いた、帰ろう とある病気のいまとむかし そしてふへんのあいについて

戯曲・演出 | 長谷基弘（劇団桃唄 309 代表）

上演日時 | 2017 年 9 月 23 日（土・祝日）18:30-20:30、9 月 24 日（日）14:00-16:00

会場 | サンポートホール高松 第 1 小ホール（香川県高松市サンポート 2-1）

料金 | 一般：前売 2,000 円（当日 2,500 円）、小中高生：前売 1,000 円（当日 1,500 円）

チケット販売開始日 | 2017 年 7 月 21 日（金）

販売 | サンポートホール高松プレイガイド 電話 087-825-5008（9:00-18:30）

イープラス <<http://eplus>> → 「ART SETOUCHI」で検索

劇団桃唄 309 ウェブサイト予約システム www.momouta.org/mts

● 劇団桃唄 309 プロフィール

1987 年、代表者長谷基弘の作品を上演する劇団として設立。以降、年 2,3 回の本公演と、実験色の強いプロデュース公演を行い、これまでに 50 回を超える公演を手掛けている。作風としては、多数のシーンを暗転などを全く用いずシームレスに繋げる事で、人物像や人間関係、社会状況や歴史的背景等を俯瞰してみせる手法を中心とする。この手法を用い、重いテーマからエンターテインメントまで、様々なジャンルの作品を独特のタッチで作り上げる事に成功している。